

目に鮮やか十二单



十一単など宮廷装束の着付けも行われた「きわみの祭典」=18日、奈良市三条宮前町のなら100年会館

10

NARA NEWS PAPER

發行所 奈良新聞社 ©奈良新聞社 2017

発行所 奈良新聞社 ©奈良新聞社 2017

旗衣装「きせの」の普及・伝承・発展を目的に昭和52年に設立。国文祭には同61年の第1回から毎回連続して参加している。

解説もあり、来場者は雅（みやび）な宮廷絵巻を楽しんだ。20～24日まで、奈良市高畠町の名勝大乗院庭園文化

第1部は「着物着付けショード」で、振り袖や着物の着方をステージで披露したり、音楽に合わせて着物を着る「着付舞」などを披露。

「十二単は必ずしも
12枚の衣装を着るもの
でなく、12という数は
たくさんのという意
味」などわかりやすい

館で十二单などの宫廷衣装の展示や帶結びや「和のストラップ」作りなどのワークショットが行われる。